

食事五観文

一つには、功の多少を計り、彼の来処を量る。

(この食物が食膳に運ばれるまでには、幾多の人々の労力と神仏の加護によることを思つて感謝いたします)

二つには、己が徳行の全欠をはかつて供に応ず。

(わたくし共の徳行の足らざるに、この食物を頂くことを過分に思います)

三つには、心を防ぎ、過貪等を離るるを宗とす。

(この食物にむかつて貪る心、厭う心を起しません)

四つには、正に良薬を事とするは形枯を療ぜんが為なり。

(この食物は、天地の生命を宿す良薬と心得て頂きます)

五つには、道業を成せんが為に、将にこの食をうくべし。

(この食物は道業を成せんが為に頂くことを誓います)